保健室

小山町立須走小学校

養護教諭　朝香真由美

富士山の麓にある本校は、山梨県境に位置し、県内の学校の中で最も標高が高く、県内屈指の寒冷地です。学区には陸上自衛隊の富士学校や演習場があり、本校の児童の約８割の保護者が自衛官で、全校児童の７割近くが官舎に住んでいます。全校児童は311人、全13学級の中規模校ですが、大きな特徴として保護者の転勤に伴う転出入の多さがあげられ、年間100人を超えます。

「ふるさと富士山に学ぶ子」の学校教育目標のもと、学校保健目標を「心とからだの健康づくりに積極的に取り組む子」としています。富士山須走口登山道を学区に持つということもあり、六年生は、毎年夏に一泊二日の山頂までの富士登山をします。子どもも職員も富士登山を目指し、年間を通じ体力作りに励んでいます。

子どもたちは、素直で明るく、元気いっぱいに過ごしています。しかし、配慮や支援が必要な子がいることも否めません。短期間での転出や度々の転居・転校がストレスとなり、不安定や不安感を招くケースもあります。

そのような実態を踏まえ、保健室では、子どもも保護者も安心感をもてるような保健室づくりを目指しています。健康推進と健康教育の拠点となり、からだと心の健康をみつめる場でもありたいと考えます。日常生活では、毎朝の健康観察と、保健室来室児童の退室時の様子をていねいにみることを心がけています。また、年間を通しての取り組みとして、「ノーメディアデー」があります。毎月20日をノーメディアデーとし、テレビやゲーム等を控え、家族とのふれあいを深められるよう、家庭を巻き込んで行っています。今年度は、昨年度末に保護者から意見や感想を募り、チャレンジカードの項目や実施日、方法を見直しました。保護者や児童からの意見を吸い上げたことで、より一層充実した取り組みがなされるようになっています。

今年二月、雪のため休校を余儀なくされた後、久しぶりに登校する児童の笑顔溢れる姿は、雪の多さに狼狽する私に力を与えてくれました。この地に生まれ育つ子も、また移り住む子にとっても、この須走小学校を「心のふるさと」「第二のふるさと」として共に学び、たくましく生きる力を培ってほしいと願います。未来を担う子どもたちが、生涯にわたって笑顔で健康に過ごせるように、微力ながら保健室から支援していきたいと思っています。

沼津市立愛鷹中学校

養護教諭　金田なつみ

本校は、生徒数400名、学級数12学級の中学校です。愛鷹山の麓に位置し、自然豊かな環境の中、生徒たちが生活しており、地域や保護者のみなさんは、学校活動に快く協力してくださいます。そうした地域柄、学校行事などにも生き生きと取り組む生徒が多く、毎年９月に行われる鷹根祭では、文化の部、体育の部ともに盛り上がりを見せています。

学校教育目標の「心豊かに　自ら学び　自己実現を目指す生徒」を受けてここ数年は、「互いに認め、高め合いながら、自分の可能性に挑戦する生徒」を目指し、全職員で日々教育活動に取り組んでいます。

学校全体としても、生徒たちは明るく、人なつこく、比較的落ちついて生活できており、保健室来室者もそれほど多くはありません。しかし、生徒たちと関わっていると基本的生活習慣が身についていない生徒も多く、健康に対する意識が高いとは言えません。そこで、保健室では「自分の身体や心の健康を知り、自己の健康管理ができる能力を育成するとともに、良い生活習慣を身につける」を経営目標として生徒たちに働きかけています。

１学期には生徒保健委員会の活動として、健康観察時の清潔チェック、環境整備のボランティア活動、熱中症予防集会、毎朝の正門に立っての熱中症予防の呼びかけ、などを行いました。特に生徒が扮する熱中症マンによる熱中症予防の呼びかけは生徒からも、職員からも好評でした。生徒同士の関わりから、わたし自身が力をもらうことの方が多いと感じています。生徒たちが見せる、大人のようにしっかりとした凛々しい顔も、小さな子どものような屈託のない笑顔も、本当に魅力的です。

中学生という時期は大人で声をかけ合うことで、自分自身や仲間の健康づくりについて考える良いきっかけとなりました。

私は昨年度まで小学校に勤務しており、この４月から中学校に異動となりました。小学校との違いに戸惑いを感じることもありますが、それ以上に生徒たちと子どもの間のような時期であり、楽しいことも多くある反面、悩んだり、考えたり、自分自身と向き合うことが求められる時期だと思います。そのような、かけがえのない貴重な時間を過ごしている生徒たちを、近くで見守ることができることをうれしく思っています。養護教諭としてまだまだ未熟者ですが、生徒が健康に生き生きと学校生活を送ることができるよう、周りの先生方に助けていただきながら、職員、地域、家庭と連携して支援していきたいと考えています。

げんきな事業所

社会福祉法人　天竜厚生会

浜松市天竜区渡ケ島二一七ー三

社会福祉法人天竜厚生会は、浜松駅から北へ20㎞天竜川の中流の小高い山の頂に法人本部があります。

昭和25年に開設して60余年の歴史を持つ法人で、結核の後保護施設として出発し、その時代のニーズに応えつつ、常に在宅での生活が困難な最重度の障害、高齢者を地域行政と連携して受け入れてきたという歴史があります。

現在では、障害者支援施設、相談事業など障害関係事業、特別養護老人ホーム他在宅サービスなど高齢者関係事業、２か所の有床診療所・過疎地である中山間地域における無床の診療所などの医療関係事業、幼稚園・保育園などの児童関係事業など１９７事業を展開する総合社会福祉法人です。

その他、中高校生などを対象とした福祉教育の他、ヘルパー研修などを受託する研修センターがあります。

静岡県西部を中心として、湖西市、掛川市、中部地域では、静岡市、藤枝市、東部地域では、富士宮市に事業の展開をしています。

基本理念「九十九匹はみな帰りたれど、まだ帰らぬ一匹の行方訪ねん」（天竜厚生会の理念には、救いを求めるわずかな存在も忘れることなく、一人ひとりの自己実現を目指し支援していくという熱く強い思いが込められています）のもとに、現在、２０７４人の職員が働いております。

職員一人ひとりがスキルを高め、目標を持って取り組めるよう、キャリアパス制度を導入しております。

【健康管理体制】

健康管理面においては、診療所には、常勤の内科医師４人、精神科医師１人他非常勤医師多数、その他、常勤歯科医師１名が配置されています。

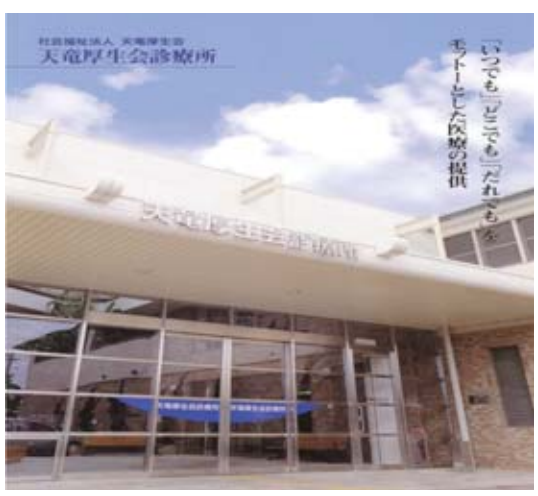
予防医学協会における年２回の定期健康診断の実施後のサポートもしています。また、診療所において職員の健康へのサポートとして、職員に向けた人間ドックを実施しております。

また、半年に一回虐待防止のための職員セルフチェックリストシートに記載を義務付け、職員一人ひとりの心のケアとともにわずかな虐待の芽を摘んでいくことを目的としています。

心のサポートが必要な場合には、メンタルヘルスの相談窓口を設けております。

天竜厚生会の事業の取り組みにつきましては、天竜厚生会のホームページをご覧いただきたいと思います。

http://www.tenryu-kohseikai.or.jp/



法人本部敷地内にある施設の一部

ロゴ・マーク

社会福祉法人
天竜厚生会

デザインコンセプト
■天竜厚生会のイニシャルである「Ｔ」をモチーフに、
真ん中に「Ｉ＝愛」があるという意味がこめられています。
■黄色い部分はやさしさと、みんなで支え合う姿を象徴し、
天竜厚生会スローガンの豊かな知識、すぐれた技術を表現しています。
■また、真ん中の「Ｉ＝愛」は熱い心を示し、
上の緑の部分は自然豊かな環境を表現しています。

【スローガン】
わたしたちは熱い心・豊かな知識・すぐれた技術でひとりを、すべての人をアシストします。

【職員行動指針】
〔熱い心〕私たちは、自らの仕事に情熱をもって、自分たちの果たすべき役割を全うします
〔豊かな知識〕私たちは、ご利用者の支援に必要な知識を、自ら学びとる姿勢を大切にします
〔すぐれた技術〕私たちは、経験や学習で得た知識を基に、工夫や改善を重ね、サービスの技術を高めます
〔ひとりを〕私たちは、向き合った一人ひとりを大切にし、ありのままを受け止め、ご利用者の自己実現を支援します
〔すべての人を〕私たちは、すべての人をかけがえのない存在として、わけ隔てなく、安心が得られるよう支援します